

3-5 スtringsの アーティキュレーション

アーティキュレーションの基本

アーティキュレーションとは、演奏に多彩なニュアンスをつける行為、あるいは記号、奏法などのことをさす。アーティキュレーションのない演奏は無味乾燥とした機械的なものだが、様々なアーティキュレーションをつけることによって、生き生きとした人間味溢れる演奏が実現できる。

【参考】モックアップにおけるアーティキュレーション

モックアップにおいては、さまざまな「奏法」をあらわす意味で「アーティキュレーション」という言葉が使用されることがある。

スピカートやアクセントなど、独自の奏法を収録した専用の音色が用意されており、これらを総じて「アーティキュレーション」と呼ぶことも多い。

アーティキュレーションの種類①

1)レガート・スラー



2つ以上の音を切れ目なくつなげて演奏する奏法。主にレガートの音色を用いて打ち込む。

2)ポルタメント



音程を滑らかにつなげて演奏する奏法。専用音色を用いて打ち込むのが自然だが、ピッチベンドでも再現可能。

3)トレモロ



弓を小刻みに動かして、音符を細かく連打する奏法。トレモロ専用音色を用いて打ち込む。

4)トリル



指定した音と2度上の音を交互に素早く演奏する奏法。専用音色のほか、レガート音色でトリル風に打ち込んでもよい。

5)ハーモニクス(フラジオ)



いわゆる普通のハーモニクス。弦を軽く押さえて、倍音を演奏する奏法。ハーモニクス専用音色を用いて打ち込む。

アーティキュレーションの種類②

6) スピッカート(スタッカート)



弓と弦の張力を利用して、弓を弾ませるようにして演奏するスタッカート。スピッカート専用音色を用いて打ち込む。

7) マルカート



1つ1つの音をはっきりと演奏する奏法。専用音色を用いるより、エクスプレッションで表現する方が自然なことが多い。

8) ピチカート



弓ではなく、弦を指で弾くように演奏する奏法。ピチカート専用音色を用いて打ち込む。

9) バルトークピチカート



親指と人差し指で弦をつまみ上げ、その張力を利用して弦を指板に叩きつける奏法。専用音色を用いて打ち込む。

10) コル・レーニョ



弓の毛の部分ではなく、背面の木の部分で弦を叩くようにして演奏する特殊奏法。専用音色を用いて打ち込む。

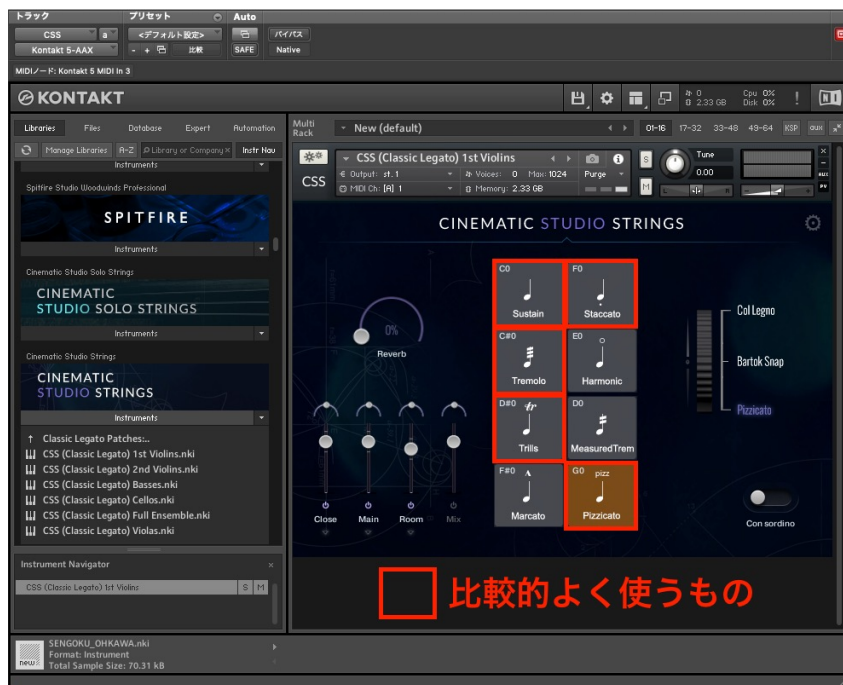
ストリングスの アーティキュレーションの付け方

ストリングスのアーティキュレーションの付け方

- ① 必要なアーティキュレーションを選定する
- ② アーティキュレーションを専用音色に置き換える
- ③ エクスプレッションを書く
- ④ 微調整して仕上げる

① 必要なアーティキュレーションを選定する

まずは、フレーズの演奏に必要なアーティキュレーションを選定しよう。基本はスラー(レガート)の音色を中心に打ち込んでいくことになるが、それ以外に必要なアーティキュレーションがあれば最初の段階で選定しておく。

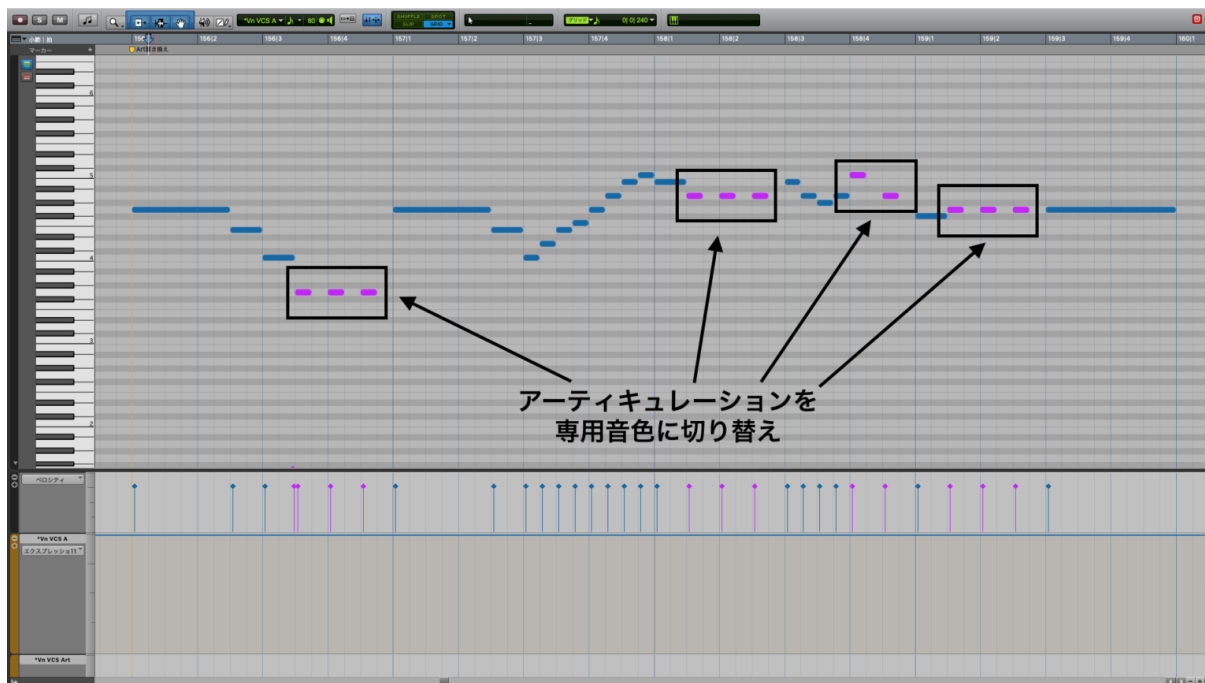


【よく使うアーティキュレーション】

- スラー(レガート)
- トレモロ
- トリル
- スピッカート
- ピチカート

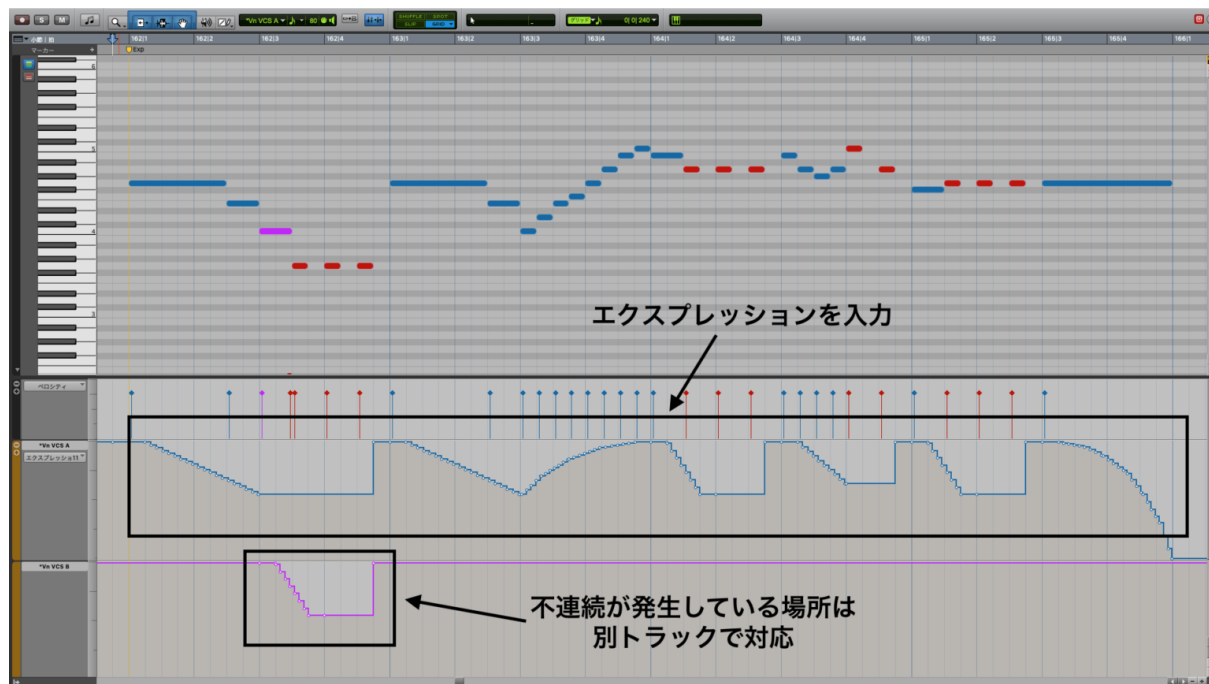
② アーティキュレーションを専用音色に置き換える

選定したアーティキュレーションを専用音色に置き換えていく。よく使うアーティキュレーションはテンプレートとしてあらかじめDAWの中に組み込んでおくと便利。以下の図は、スピッカートで演奏すべきところを専用音色に置き換えたもの。



③ エクスプレッションを書く

主にロングノート系アーティキュレーションに対してエクスプレッションを付与する。ショートノート系でも、専用音色を用いるよりエクスプレッションで表現した方が自然な仕上がりになる場合もあるので、よく吟味しよう。

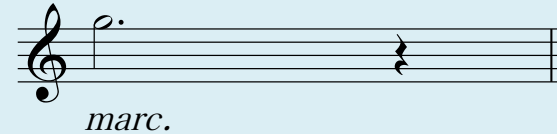


様々なアーティキュレーションとエクスペッション

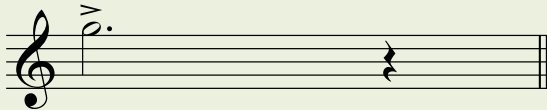
1) スピッカート



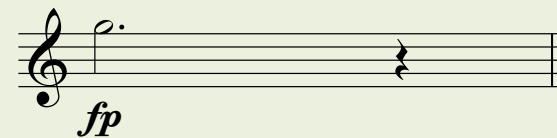
2) マルカート



3) アクセント



4) フォルテピアノ



5) トレモロ



6) トリル



7) ハーモニクス(フラジオ)



8) ピチカート



□ = エクスペッション不要 □ = エクスペッション必要 □ = ケースバイケース

※赤字は比較的良く使うもの

エクスプレッションで表現した方が自然なもの

3) アクセント



ノートの頭を強めに演奏し、そのままエクスプレッションを減衰させる。

4) フォルテピアノ



ノートオンと同時に大きくエクスプレッションを減衰させる。

④ 微調整して仕上げる

アーティキュレーション専用音色に切り替えたことで、つながりが不自然に聞こえるポイントがあれば、ベロシティなどで音量、音色を調整し、自然に聞こえるよう調整。とくにスピッカーはベロシティが強すぎると唐突な印象になりがちなので注意しよう。